

第5章 MFCA セミナーの概要

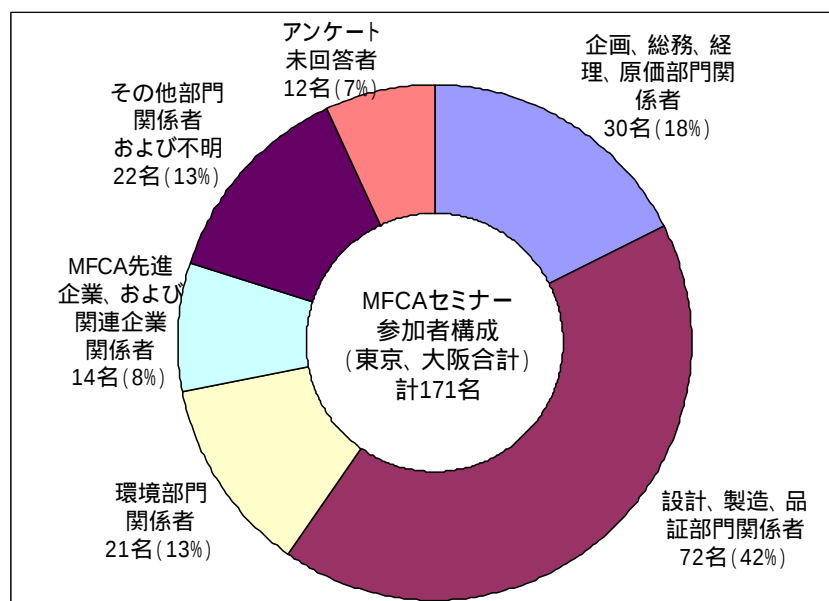
5 - 1 . MFCA 普及セミナーの実施概要

この調査研究において、MFCA 導入共同研究モデル事業の一貫として、MFCA 普及を目的としたセミナーを実施している。

その概要を以下に記す。

- ・セミナー名 : マテリアルフロ - コスト会計の実務セミナー
- ・実施日時 : 平成 17 年 3 月 7 日 (月) 14:00 ~ 16:30 (東京)
平成 17 年 3 月 10 日 (木) 14:00 ~ 16:30 (大阪)
- ・セミナー会場 東京 : 東京コンファレンスセンター・品川
大阪 : 新梅田研修センター
- ・セミナー講師 : MFCA モデル事業事務局およびモデル事業参加企業が発表を行なう
下垣彰、石田恒之、山田朗 (MFCA モデル事業事務局)
曾宮国雄 (グンゼ株式会社 3 月 7 日 東京会場)
池田猛 (ジェイティシイエムケイ株式会社 3 月 7 日 東京会場)
今井伸一 (松下電器産業株式会社 3 月 10 日 大阪会場)
池本輝男 (ホクシン株式会社 3 月 10 日 大阪会場)
- ・セミナー内容 : セミナーテキストを本報告書の最後に添付したので、参照されたい。

セミナー参加者は、東京 100 名、大阪 71 名で、その構成は図 5-1 の通りである。



(図 5-1 MFCA セミナー 企業内の所属部門分類別の参加者数)

5 - 2 . MFCA 普及セミナー参加者アンケートの結果

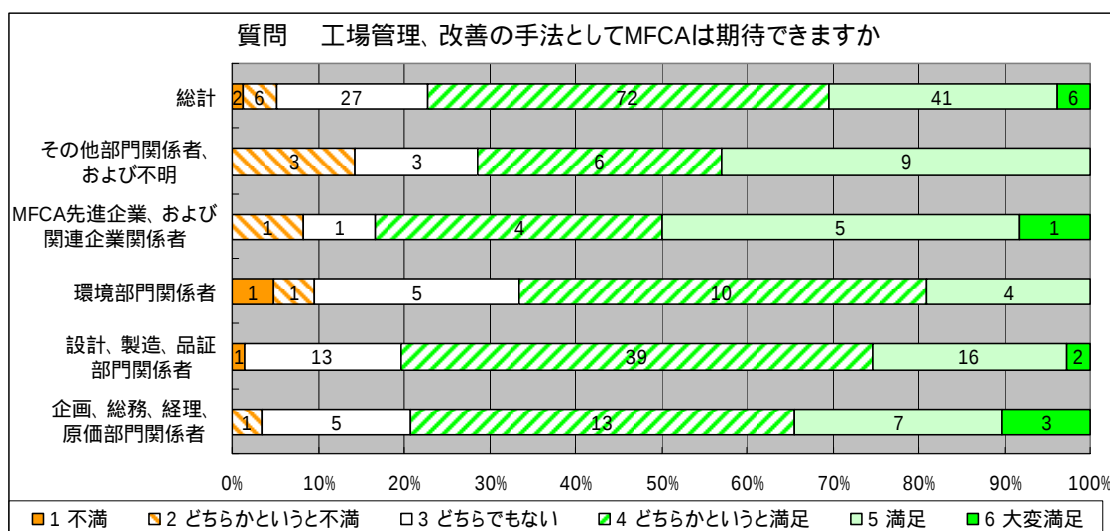
本セミナーの参加者に、セミナー終了後にアンケートを記入してもらい、セミナーの内容、MFCA に関する期待度、MFCA の導入状況などを調査した。

以下、設問項目別に、アンケートの集計結果を記す。

なお、設問 2、設問 3 の質問に対する回答の集計に際しては、1 社で複数の参加者がいる場合において、セミナー主催者が企業代表回答者を抽出し、それを有効回答とした。

設問1 今回紹介させていただいたマテリアルフローコスト会計 (MFCA) についてご評価ください。

質問 工場管理、改善の手法として MFCA は期待できますか (有効回答 154 件)



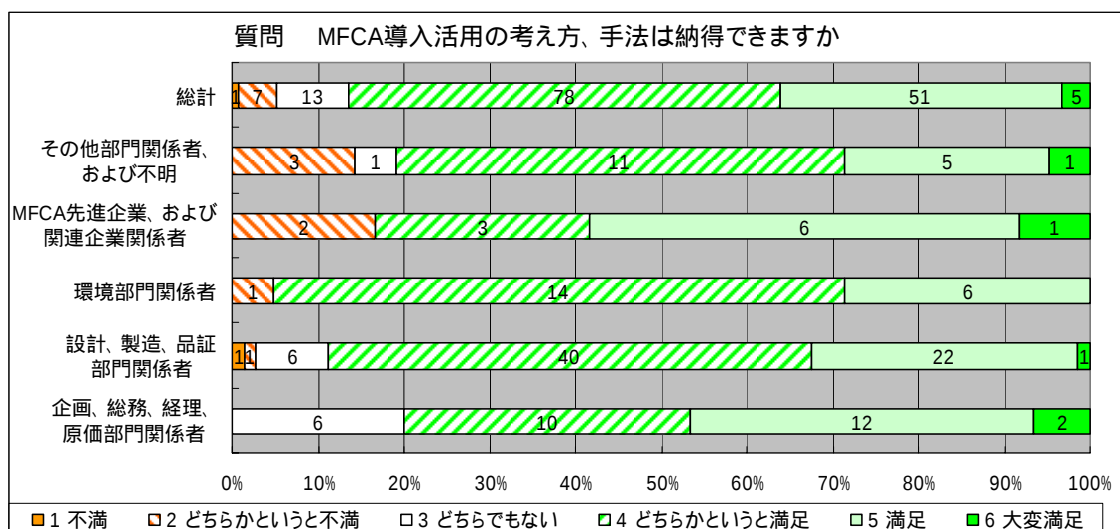
(図 5-2 工場管理、改善手法としての MFCA の期待値)

MFCA の手法が、工場管理、改善の手法としての期待に関しては、有効回答 154 件の中で 106 件が回答 5「どちらかというと満足」、回答 6、「満足」、回答 7「大変満足」と回答し、比較的、期待度が大きいことが分かった。

特に、MFCA 先進企業やその関係企業の関係者は、MFCA に関する知識も多く、企業内部での実践例にも多く触れていると思われ、その期待度の高さが際立っている。

部門別に見ると、一般の環境部門関係者の期待度は、設計、製造、品証部門関係者や企画、総務、経理、原価部門関係者のそれと比較すると、期待値が若干小さい。これは、MFCA が環境管理会計の手法といっても、環境部門のツールではなく、実務を遂行する部門のツールであるという特性に起因しているものと推定される。

質問 MFCA 導入活用の方、手法は納得できますか(有効回答 155 件)



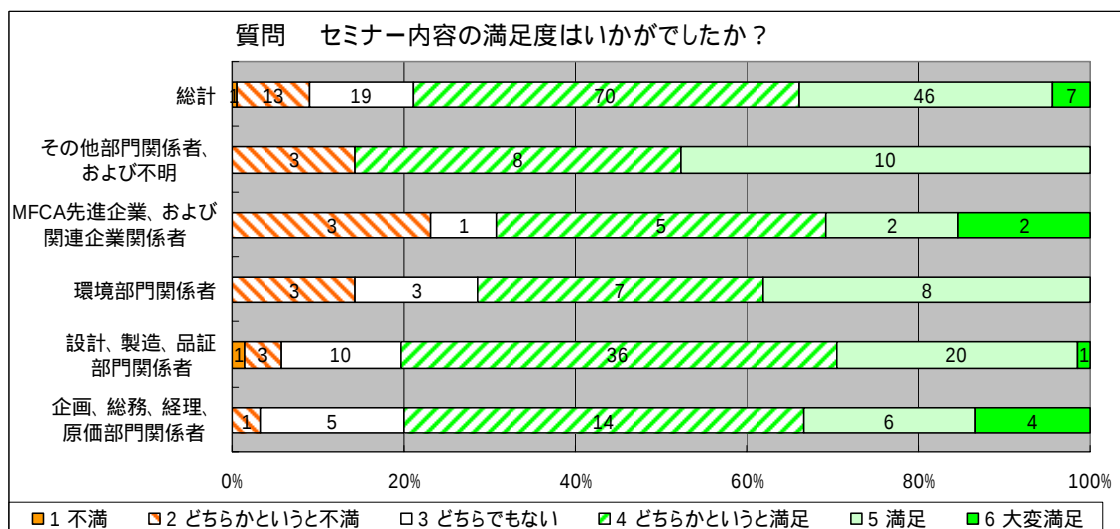
(図 5-3 MFCA 導入、活用の考え方、手法の納得度)

今回の MFCA セミナーは、MFCA の基本的な概念よりも、実際の導入方法、計算方法、活用方法に重点をおいた内容にした。この設問は、セミナーの内容に関する評価である。

有効回答 155 件の中で 134 件が、回答 5「どちらかというと満足」、回答 6「満足」、回答 7「大変満足」と回答し、比較的、今回の内容に関する共感度が高かったことが伺える。

特に、企画、総務、経理、原価部門担当者は、満足度が高く現れており、MFCA が原価計算手法のひとつであるという位置づけから、内容に関する理解をしやすいものと推測される。

質問 セミナー内容の満足度はいかがでしたか？(有効回答 156 件)



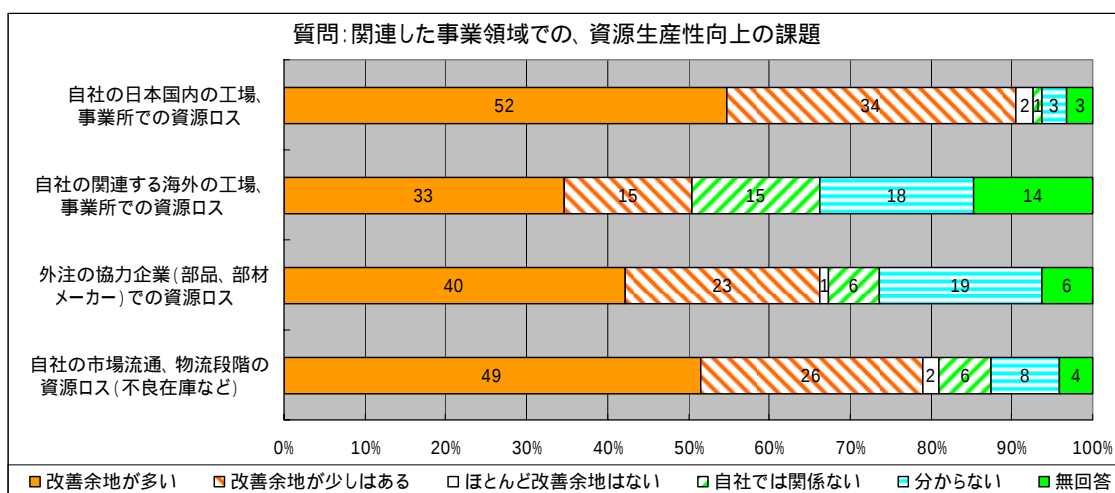
(図 5-4 MFCA セミナー内容の満足度)

今回の MFCA セミナーに関しては、有効回答 156 件の中で 123 件が、回答 5「どちらか」と満足」、回答 6「満足」、回答 7「大変満足」と回答し、今回のセミナーの内容に対する満足度が、比較的、高かったことが伺える。

ただし、MFCA 先進企業やその関係企業の関係者、および環境部門関係者では、不満に近い回答が多かった。他の部門関係者に比較して、MFCA に関する知識が豊富であるだけ、より深い情報提供を求めていることが伺える。またセミナーにおける質疑において、環境部門関係者から、MFCA 手法がコスト重視に過ぎるという意見がいくつか出されたが、これは環境問題に対する認識度の違いが背景にあるものと思われる。

設問2 御社に関連した事業領域での、資源生産性向上の課題に関して、お聞かせください。

(有効回答数 95 件)



(図 5-5 資源生産性の課題の大きな分野)

この質問の集計には、最初にも述べたように、複数の参加者、回答のあった企業から、主催者側で企業代表回答を抽出した。この設問では、次の 4 つの分野ごとの資源生産性向上の課題の有無、大きさの認識を聞いている。

自社の日本国内の工場、事業所での資源ロス

自社の関連する海外の工場、事業所での資源ロス

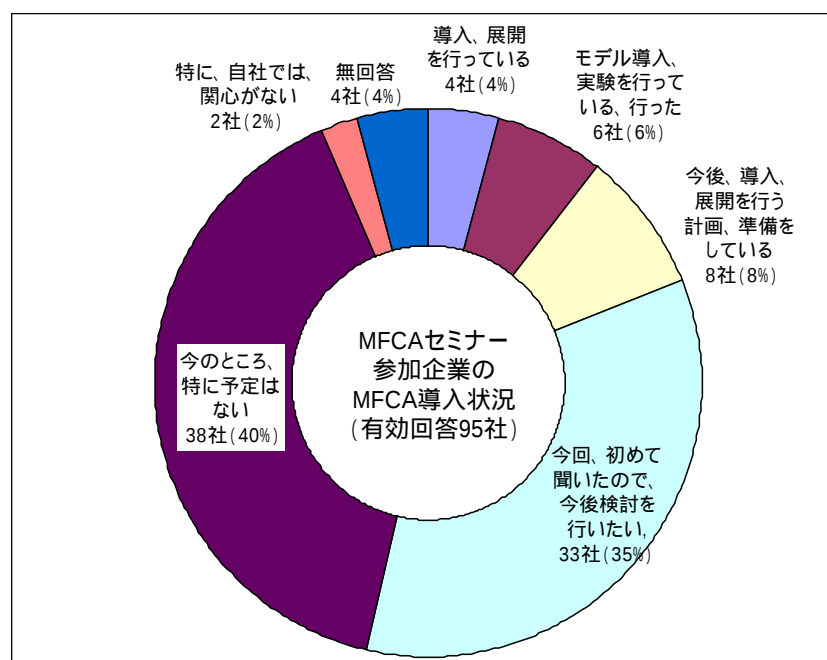
外注の協力企業(部品、部材メーカー)での資源ロス

自社の市場流通、物流段階の資源ロス(不良在庫など)

しかし、この分野に関しては、「自社では関係がない」、「分からない」、「無回答」が多く、それを差し引くと、「改善余地が多い」という認識が、ほとんどの項目に関して 50% 程度あると思われる。

設問3 マテリアルフローコスト会計手法の導入状況、予定についてお聞かせください。

(有効回答数 95 件)

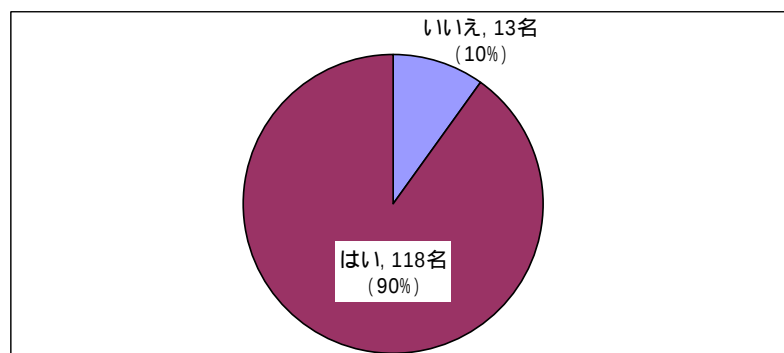


(図 5-6 MFCA 導入状況)

セミナー参加企業 95 社中 10 社が、何らかの形で導入、実験の経験があるか、その導入展開を図っている。導入準備、計画中の企業 8 社を含めると、今回の MFCA セミナー参加企業のおよそ 2 割が、MFCA を導入しているか、もしくは導入予定中である。

またセミナー参加企業の中の 33 社が、今後、その導入検討を行ないたいとしている。MFCA の普及がこのセミナーの目的であり、その効果が認められる。

設問4 MFCA の手法、およびモデル事業には期待できますか？ (有効回答数 131 件)



(図 5-7 MFCA と MFCA モデル事業に対する期待)

MFCA、および、この MFCA モデル事業に対する期待するとの回答が、約 9 割にも上っており、非常に期待されていることが分かる。

第6章 今後の MFCA の普及の課題

地球温暖化対策の取り組みとしては、冷房温度設定を下げる、電気をこまめに消す、ボイラーや空調機器などを省エネ型のものに交換するなどに止まっている企業が多い。資源効率向上の取り組みは、製造途中で発生した廃棄物を、分別しリサイクルするに止まっている企業が多い。そうしたことは必要であるし、重要なことではあるが、より企業本来の製造プロセス、業務プロセスの環境負荷低減、資源効率向上の取り組みが求められているのである。

しかし、不良品や端材などのロスを多く出してしまうなどにより、必要以上の材料を使って生産を行なっていることがある。欠品を起こさないために、あるいは実際の需要以上に製品や仕掛品を作りすぎたり、材料を買い込んでしまったりして、結局、それらを廃棄させてしまっていることがある。そうした資源ロスの削減は、企業本来の製造プロセス、業務プロセスを改善することによってのみ可能なのである。

環境管理会計の手法が普及するということは、上で述べた産業界での企業内部の製造プロセス、業務プロセスにおける環境効率向上、資源効率向上の取り組みが、広がりを見せているということであろう。こうした手法は、これらの取り組みをより効果的、効率的にすすめるために開発され、適用されるためである。

特に MFCA は、その手法としてのコンセプトが、資源効率向上とコストダウンの同時達成を図るというものであり、企業にとっても受け入れ易いと思われる手法である。しかし、現時点では、その普及は始まったところであり、また普及のスピードは緩やかなものになっている。それにはいくつかの理由があると思われる。それを以下に述べる。

経営管理手法としての MFCA の課題

MFCA は、手法として適用事例のある業種が、まだ十分な広がりを持っていない。特に素材製造系での適用事例が見られず、そこでの適用ノウハウは収集もできていない。サプライチェーンで連携した適用に関しては、計算の原則やロジックに検討の余地がある。

また、MFCA は分析だけの手法であるため、実際に適用して効果を出そうとするのであれば、改善の手法、体制、仕組みを合わせて適用の仕方を工夫する必要がある。

MFCA の認知度の課題

MFCA は、企業の環境部門での認知度はかなり高くなってきている。また原価管理部門でも認知されつつある。しかし、MFCA の適用に当たって、原価部門、製造部門、生産技術部門、品質保証部門、設計部門などが連携して、MFCA を活用した改善を図るものである。従って、そうした部門の関係者、管理者、工場経営者層に対して、MFCA の意義とメリットを強く訴え続けていく必要がある。

企業における環境への取り組みの姿勢面での課題

「MFCA を適用して、資源効率向上とコストダウンを同時に検討しましょう」と企業関係者に訴えた際の反応は様々であるが、その反応の中に次のようなものがある。

「資源効率向上の重要性はわかるが、現在は他の経営課題への対応で取り組めない」

企業である以上、利益を出すのは必要であるし、そのためにも、競争力強化、新事業や新製品開発、コストダウンなどの取り組みが、まず最優先されるのは仕方ないと思われるところはある。

しかし上記のような反応を、経営幹部、工場幹部、部門幹部が示し続ける限り、企業内部の製造プロセス、業務プロセスにおける環境効率向上、資源効率向上の取り組みが、本格的なものとはなり得ない。(もちろん、そうした部分において、自社には改善余地がない場合は別であるが)

製造プロセス、業務プロセスにおける環境効率向上、資源効率向上に向けて、経営幹部、工場幹部、部門幹部の意識を啓蒙し続けていく必要があると思われる。

参考文献

『マテリアルフローコスト会計 環境管理会計の革新的手法』

著者：中畠道靖、國部克彦、出版：日本経済新聞社

『環境管理会計入門 理論と実践』

著者：國部克彦【編著】 経済産業省産業技術環境局【監修】、出版：社団法人産業環境管理協会

『環境会計最前線—企業と社会のための実践的なツールをめざして』

著者名：地球環境戦略研究機関関西研究センター（編集）IGES, 國部 克彦, 梨岡 英理子（監修） 出版：省エネルギーセンター

『環境管理会計手法ワークブック』

発行：経済産業省 平成 14 年 6 月

『平成 15 年度 経済産業省委託 環境ビジネス発展促進調査研究（環境管理会計）報告書』

発行：社団法人産業環境管理協会 平成 16 年 3 月

「環境管理 第 39 巻第 7 号」から、

『特集：マテリアルフローコスト会計 國部克彦、中畠道靖、古川芳邦、河野裕司、岩田恭浩、安城泰雄』

発行：社団法人産業環境管理協会 平成 15 年 7 月

「サステナブルマネジメント 第 3 巻 第 2 号」から、

『マテリアルフローコスト会計の手法的特長 - 日東電工の企業事例を中心に - 古川芳邦』

編集：環境経営学会 発行：日本工業新聞社 平成 15 年 12 月